

乳腺超音波検査における品質管理指標

◎上田 将史¹⁾、森 俊明¹⁾、田中 祐子¹⁾、山口 由紀子¹⁾、樋口 絢子¹⁾、秋永 理恵¹⁾
飯塚病院¹⁾

【緒言】当院の中央検査部では品質管理指標（以下 QI：Quality Indicator）の1つとして「乳腺超音波検査の正確性」を新たに掲げ、この指標を適正に管理し、継続的に向上させていく取り組みを開始した。その方法として、検査部で行った超音波検査所見が病理所見とどの程度一致しているか調査し、調査結果を元に QI と設定する項目や目標値を決定した。調査結果も含め、今回の取り組みを報告する。

【方法】2020年4月1日～2021年3月31日の期間に検査部で乳腺超音波検査を受けた新患外来患者 553 名について結果をカテゴリー分類し、その分布等を調査した。また、対象のうち病理検査まで精査を行った症例について、超音波検査と病理検査の良悪性鑑別がどの程度一致しているか調査し、さらに検査感度と陽性反応的中率を算出した。

【結果】全 553 症例の内訳は、C-1 が 102 例、C-2 が 220 例、C-3 が 91 例、C-4 が 66 例、C-5 が 74 例であった。C-1・C-2 と判定した症例についての病理検査実施率は 7.1% と低く、多くの症例は画像診断等による臨床診断であった。病理検査まで精査を行った症例は、全体の 41.2% に当たる

228 例であった。その内訳は、C-1 が 2 例（悪性 2 例）、C-2 が 21 例（良性 18 例、悪性 3 例）、C-3 が 66 例（良性 55 例、悪性 8 例、鑑別困難 2 例、境界病変 1 例）、C-4 が 66 例（良性 11 例、悪性 54 例、境界病変 1 例）、C-5 が 73 例（悪性 73 例）であった。C-3 以上を陽性とした場合の検査感度は 96.5%、陽性反応的中率は 66.8% であった。

【考察・結語】今回の調査結果では、当検査部の乳腺超音波検査が高い感度で実施できていることが確認できた。一方、高い感度を目指した結果、偽陽性の症例数が増え、陽性反応的中率がやや低くなっている可能性が考えられた。このことを踏まえ、品質を維持・改善していくために超音波検査の感度と陽性反応的中率を QI と設定し、高い水準で維持していくことを目標とした。目標値としては、検査感度 95% 以上、陽性反応的中率 65% 以上をベースとし、今後の推移を見ていくこととした。鑑別に苦慮した症例の検討を定期的に行うことで、QI 値を高い水準で推移させていきたい。
飯塚病院中央検査部 0948-22-3800（内線 5259）